

令和6年度学校評価及び令和7年度重点課題

1. 目指す学校像

1-1. 教育方針

- ・個々の能力を十分に伸張させると共に、品性の高い教養のある人間を育成する。
- ・思いやりのある豊かな心、真理を追究する真摯な心、自己を厳しく律する克己の心を育て、文化国家の担い手にふさわしい人材を育成する。

1-2. 教育目標

- ・豊かな知性、正しい判断力、理解力を養うことを教育の根本とし、将来の目標を達成するために恵まれた環境を活用してきめ細かい指導を行う。
- ・基本的な生活習慣を身につけさせるための躾については十分に留意、厳しく指導し、あくまでも清楚にして質実剛健な校風の高揚に努める。

2. 令和7・8年度学校改編

- ・令和7・8年度で学校を新たなものとして改編する。

- 1) 令和7年度：2期制への移行、独立クラス（特進クラス、アスリートクラス）の設置、一般クラスでは進路実現に向けた課題（進学、栄養看護、幼児教育、美術、資格取得）を設定
- 2) 令和8年度：7限（45分）授業の導入、コース制（特進コース、アスリートコース、総合コース）への移行、総合コースでは進路実現に向けた課題（進学、栄養看護、幼児教育、美術、資格取得）を設定

3. 学校改編に伴う新たな目標設定

- 1) 以下の①～③を実現する教育を推進する。

- ①目標に応じた学習が継続して「できる」こと
- ②主体性を「育む」こと
- ③目標を「実現する」ことで自律すること

- 2) 気づかなかつた能力の覚醒を徹底的に支援し、一人一人の可能性を伸ばし続ける教育をとおして、自己肯定感を高め、未来にチャレンジする勇気を育てる。

- 3) 基礎的、基本的な学力の養成と生徒の目標に合わせたカリキュラムの構築

- 4) 総合的な探究指導

- 5) 進路別指導、小論文指導、検定学習（漢検）、エリア学習（公開）

- 6) I C Tを導入した授業展開の充実と学習の個別最適化への対応

- 7) 新指導要領への対応のための研鑽

4. 改編後も継続して取り組むこと

4-1. 生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

- 1) 遅刻指導の徹底
- 2) 定期的な頭髪服装検査、指導の実施
- 3) 登下校中のマナーの向上
- 4) 講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマート講習、薬物乱用防止講習など）

4-2. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

- 1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実
- 2) 部活動の活性化
- 3) 生徒会活動の充実

4-3. いじめ問題への対応

- 1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

5. 各目標に係る実践状況

5-1. 生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

1) 遅刻指導の徹底

- ・令和6年度の遅刻者の1日平均は、1年5.2人、2年7.0人、3年11.6人（合計23.8人）であり、昨年度（合計30.1）と比較すると合計で6.3人減少している。
- ・生徒指導部による遅刻指導では、10ポイント指導を受けた生徒数120人（昨年度239人）、20ポイント指導を受けた生徒数32人（昨年度41人）、30ポイント指導を受けた生徒数8人（昨年度5人）、昼からの登校により指導した生徒数95人（昨年度77人）だった。
- ・全体の遅刻数が減少している一方で、30ポイント指導、昼からの登校による指導を受けた生徒が増加している。
- ・体調管理も含めて規則正しい生活が送れるよう指導を根気強く行っていく。

2) 定期的な頭髪服装検査、指導の実施

- ・学期始め、中間考査時、期末考査時に行っている頭髪指導では、指導生徒数合計581人（内、帰宅指導生徒51人）であった。昨年度は指導生徒合計579（内、帰宅指導生徒44人）であった。指導生徒総数、帰宅指導生徒数ともに増加している。引き続き取り組んでいきたい。
- ・頭髪指導については現代社会の情勢を鑑みて、適切な指導ができるよう検討していく。
- ・服装については登校時に身だしなみを整えるよう指導し、適宜、生徒指導部による巡回指導を行った。

3) 登下校中のマナーの向上

- ・本年度も生徒指導部を中心に登校時と下校時の指導を行った。ただ昨年度と同様、近隣の方や公共交通機関利用者よりマナーの至らない点について指摘を受けており、引き続き全体、個別への指導を行っていく。
- ・生徒会でも定期的にあいさつ運動を行った。近隣の方からもあいさつする生徒が増えているとのお言葉をいただいている。

4) 講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習など）

- ・生徒指導部により自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習を行った。
- ・人権教育推進委員会により各学年ごとに人権講習会を行った。

*テーマ 1年：いじめと情報モラル、2年：いのち・性について、3年：LGBTQについて
○1年

情報モラルに関しては、高校に入学する前から様々なところで学ぶ機会があったと思うが、今回の人権HRを通してSNSの使い方や安易な行動で個人情報を特定される可能性があることを再確認できたと思う。また、いじめのことに関しても相手の気持ちを考えて行動することが大切であると再確認できる機会になった。

○2年

「いのち・性」についての講演で9割の生徒が普段学べないことや聞きにくいことを知れてよかったですというアンケート結果だった。講演後、個別相談の時間をとってもらった。自分の体のことで気になっていることがあったとしても専門家の人に相談しに行くのは高校生にとってはハードルが高い。そう考えると、今回は良い機会になった。

○3年

講演を聴いた感想のほとんどが「苦しみに耐えながら自分らしさを実現しなければならなかったこと」「自分を偽ることの苦しさ」に対する意見が多かった。「人それぞれ違うだけのものなのに、味わう必要の無い苦しみをなぜ味わなければならないのか」という社会への疑問や矛盾を感じたのだろう。これから社会に出て行く三年生には講演を聴いて感じたことを大事にし、自分らしく生きていってほしい。

*講習後のアンケートからは生徒たちが自分事として捉えていることがうかがえる。引き続き取り組んでいきたい。

5-2. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実

- ・今年度は体育祭、文化祭共に保護者の方に見に来ていただいた。
- ・文化祭後の生徒アンケートでは96.4%の生徒が「良かった」「まあまあ（良かった）」と回答している。体育祭ではアンケートを実施していないが、真剣な表情で一生懸命競技に臨んでいる姿が多数見られた。生徒がより楽しむことのできる行事とできるようこれからも取り組んでいきたい。

2) 部活動の活性化

- ・今年度のクラブ所属生徒数は後期の部員名簿によると376人であった。所属率は376/513=73.3%（昨年度66.2%）と10.1ポイント増加した。
- ・主なクラブ実績
 - 柔道部：女子（団体・個人）近畿大会出場、等
 - バスケットボール部：ウインターカップ大阪予選準優勝、大阪私学大会3位、近畿新人大会準優勝、等
 - ハンドボール部：インターハイ予選北ブロック優勝、秋季総体第3位、近畿私学大会6位、等

3) 生徒会活動の充実

- ・生徒の生活の改善と向上を図る活動としてあいさつ運動、校外清掃を実施した。
- ・文化祭の運営を行った。
- ・オープンキャンパスでは受付補助、学校生活の説明を担当した。
- ・コンタクトレンズの空ケースの回収を行った。

5-3. いじめ問題への対応

1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

- ・1・2学期末（定期考査毎）には生徒にアンケートを取り、未然防止に努めた。いじめ防止対策委員会としていじめと認定した案件が1件あった。迅速に対応することで被害生徒の不安を取り除き登校を継続することができた。

6. 各種学習活動の報告

6-1. エリア学習

6-1-1. アドバンスエリア

- ・土曜エリア学習、放課後講座、サマーセミナーで受験、進学講習を実施した。
- ・特進は模試および受験に向けた学習を2教科に絞ることで質の高い授業を行うことができた。また、一般は校内模試を意識した英数国3教科の学習を行った。
- ・一般・特進を問わず欠席が目立った。一般については意識付けが引き続き課題となるが、特進については個人面談などでケアが必要。
- ・例年通り指定校推薦が多かったが、総合型選抜、学校推薦型選抜（公募制）、一般選抜も増加した。
- ・指定校、総合型の入試前にはライセンスアカデミーの協力の元、多目的室、HR教室等を使用して面接練習を行った。
- ・1年特進6名が外部模試（希望制：第4回全統高1模試）を受験した。
- ・受験に対する意識が低い一部の生徒に関しては一般後期までもつれ込んだ。
- ・主な合格大学
 - 京都産業大学、近畿大学、甲南大学、大和大学、大阪経済大学、等

6-1-2. キンダー・ウェルフェア・アート

○エリア学習の主な内容

- ・キンダー

*保育実習準備、幼児体育、季節の造形（クリスマス、お正月、節分）、大阪青山大学出前授業、ピアノ発表、学外実習（五月山公園）

- ・ウェルフェア

*車いす体験、介護食体験、出前授業（社会福祉法人 豊中ファミリー・グローバルアート）、

学外実習（五月山公園）

- ・アート

*人物描写、外部講師による「キャラクター、イラストの描き方」講座、

学外実習（五月山公園）スケッチ、五月山公園でのスケッチを元に発表会に向けた作品制作（水彩等）

窓ガラスアート制作

○7 時間目講座

- ・キンダー

*ピアノ講座（各学年 ピアノ・楽典 各1日、計2日）

- ・ウェルフェア

*福祉講座（毎週月曜日）

- ・アート

*デッサン講座

○外部実習

- ・箕面学園付属幼稚園 7月9日 キンダー全学年

- ・箕面学園附属幼稚園 5日間 2号認定園児対象 3年生 1名

- ・五日間の夢体験事業（大阪福祉人材支援センター主催）3年生 3名

- ・福祉のお仕事体験（大阪福祉人材支援センター主催）

社会福祉法人豊中ファミリー デイサービスセンターアリス箕面 1年生 1名 2年生 1名

○セミナー（夏・冬）

- ・保育検定対策講座 2・3年

- ・ピアノ講座 全学年

○全国高等学校家庭科 保育技術検定

- ・検定実施時期 7月・8月・12月

- ・4級合格者 2年生 6名 3年生 2名

- ・3級合学者 3年生 5名

○まとめ

- ・キンダー

土曜のエリア学習では季節のイベントを取り入れ、個々が意欲的に参加することができた。昨年度から実施している保育検定は直前に対策講座を実施し前期・後期で3・4級を実施することができた。

今年度は土曜エリア学習は時間が空いていたため、単発での学習が中心だったが来年度以降は授業とも連携し継続性のあるエリア学習が実施していくように計画していきたいと考えている。

- ・ウェルフェア

今年度のエリア学習では介護と食事に関する知識を学び、実際に自らも利用者の方の食事を食べてみることでその人の立場に立って食事の大切さを考えることができた。また、施設実習や出前授業などから現場での介護や福祉の現状を理解し、福祉用具の体験をすることで専門的な技術やレクリエーションを通しては、コミュニケーション能力の必要性を身近に感じることができた。多様な分野のある福祉の中でも今年度は特に高齢者介護分野に特化した知識を習得することができた。

- ・アート

アートエリア全員で窓ガラスアートを制作したことで、協力して一つの作品を完成させる力が身についた。また、市役所への設置を通じて、地域への貢献や公共の場でのアートの意義について学ぶ機会となり、さらに、個人の取り組みとしてワンストロークペインティングの技術を習得し、それぞれのスキル向上にもつながった。

6-1-3. アスリート

○エリア学習

基本的には各クラブにおいて活動した。また、共通講座としての「目標設定講座」を各クラブの適当な時期に実施し、生徒の意識向上につなげることができた。エリア学習によって活動時間が確保でき、練習試合や合同練習も実施することができることから、生徒のアスリートとしてのスキルアップにつながった。またエリア公開によって、個人だけでなく、学校・チーム単位での参加も増え、箕面学園を知つてもらう良い機会になっていると感じている。一方で、各クラブの部員数の増加や活動が活発になっていくなかで、活動場所やマイクロバスの確保など環境面での課題、難しさも感じている。

○生徒募集

各クラブがこれまで以上に募集活動を精力的に行い、SNSなどを積極的に使用して広報活動を行った結果、昨年度と同数の生徒を確保することができた。一方で、学校評価やアクセス面等を理由に断られることも多々あり、厳しさ、難しさも感じた。女子クラブにおいては、学校の女子の総数の少なさを理由に敬遠されることもあった。また、入試基準が上がったことで戸惑われることもあったが、カリキュラムやクラス編成の説明を行うことで理解してもらえたケースもあった。募集活動の範囲を広げるなかで、学校運営の寮がないことが断られる原因になったケースもあった。今後さらに各クラブの活動を充実させていくためにも、学校運営の寮の設置の検討をぜひお願いしたい。各クラブが募集活動を精力的に行ってきている結果、各クラブの部員数も増えてきているが、それに伴い、施設（活動場所）や施設へのアクセスの面での問題も同時に起こってくる。特にグランド使用クラブにおいては、その環境や安全面への不安などから敬遠されることもあった。環境面での課題を解消するために、校外の施設の確保や利用する際の費用のことなどを検討しなければならない。

○進路について

今年度は、クラブ活動を通じて大阪体育大学、天理大学、桃山学院大学、大阪産業大学、関西福祉科学大学、流通科学大学、びわこ成蹊スポーツ大学、姫路独協大学、明治国際医療大学、東大阪大学、大阪経済法科大学、国際武道大学、日本福祉大学、福井工業大学、宮崎産業経営大学などへ進学を決めた。他の生徒たちに關しても、クラブ顧問が進路について話をする時間をしっかりと持ち、それぞれが将来の目標に向けて進路を決定してくれた。スポーツ推薦や指定校推薦における志望理由書や面接などに向けて、担任の先生方やアドバンスエリアの先生方に協力していただき、それぞれ合格することができた。

○今後に向けて

部員数が増加するなかで、場所の問題など環境を整えていくことが大きな課題となっている。環境面の充実が募集に大きく影響することもあり、よりよい環境を整備する方法を考えつつ、エリアの基本方針を達成できるように、それぞれのクラブが工夫しながら活動をより充実させていきたい。

募集面では、募集活動を早く始めたり、SNSを活用するなどして、今年度以上に募集活動も充実させていきたい。戦績をあげることが生徒の進路選択を広げるだけでなく、募集にも大きく繋がるため、戦績をあげられるように各クラブの活性化を図っていきたい。また学校全体の生徒確保の力になっていきたい。来年度からアスリートクラスが、再来年度からはアスリートコースが編成されることもあり、より各クラブの活動を充実させ、進路を確保していくことが、生徒や保護者の満足度につながり、今後の募集にも大きく繋がっていくと思うので、アスリートだけではなく、全先生方のご協力を賜りながら、生徒の進路希望などを叶えられるよう指導していきたい。

6-1-4. キャリアアップ

○実施内容

*土曜日エリア学習 :

- ・選択講座 [10月05日時点選択者数]

(選択 1A) 資格取得講座 (PC 系) [1年10名、2年11名、3年7名]

今後、資格取得を活性化したい学校方針にあわせ、現在の選択科目で取り組みの土壤がある検定を中心に構成し、主にタイピングを中心に取り組みました。

担当者所見)

集中して取り組めていた。回を追うごとに上位の級に合格する生徒も増え、一定の成果は出たのではないかと思う。

(選択 1B) 資格取得講座（漢字検定） [1年1名、2年6名、3年11名]

全校で取り組んでいる漢字検定および選択科目「漢字検定講座」等の取り組みを更に補強し、漢字学習の重要性と検定合格への意識向上を狙いました。上位級と下位級で教室を割り、それぞれの適正にあった指導を行いました。また、漢字ゲームに班対抗で挑戦したり、後述のサマーセミナーにおいて漢検学習と共に「漢字ミュージアム」見学、篆書体の角印作成を行うなど、検定合格だけではなく漢字の文化的側面や、文字の成り立ち等を学ぶ機会も設けることができました。本講座選択者の漢検合格は、28名中5級3名、4級1名、3級1名と、決して合格率が高かったわけではないため、より頻繁な学習機会の設定と、その機会を生かす学習意欲の育成に期待したいと考えています。

担当者所見)

それぞれよく取り組むことができていたと思う。漢字ミュージアムや漢字で GO などただただ漢検の学習だけをするのではなく体験型があったので、飽きずに取り組めた生徒が多かった。生徒が自ら選択している講座ということもあり、真剣に取り組む姿が多くみられた。級別で教室を変えたことで、級の低い子たちが「受かったら友達と同じ部屋に行ける」という目的を持てたのはよかったです。学校全体の取り組みの中での漢検は、目的意識がはっきりしていないこともあって惰性で行ってしまうことも見受けられたので、明確な目的を指導したうえで講座を始められたのがよかったです。

(選択 2) 基礎学力養成講座（主に国数） [1年16名、2年7名、3年5名]

現行の授業や卒業後の進路先で求められる基礎学力や、SPI、適職検査等就職試験も視野に入れた学力養成を行うため、個別にスタサブを配信する形で実施しました。学力向上にも寄与したと思われるが、根本的な自学自習の習慣づけになったと考えられます。

担当者所見)

目的意識のある生徒ばかりで終始真面目に取り組んでくれた。学校のシステムによく合っている。

(選択 3) 探究学習講座 [1年5名、2年5名、3年12名]

就職後の現場においてもっとも必要とされる力の1つが探究力であることから、一般的な探究の入門的な流れを踏襲（目標自主設定→探究→発表）し、学年で取り組んでいる探究学習へのスムーズな対応力やプラスαの探究力を育みました。同時に小論文や面接等への対応力にも繋げる事を目的に取り組みました。テーマ設定には地元箕面市に関するを中心設定し、特に調べ学習の段階(10月)では箕面駅周辺でのフィールドワークを設定し、学年末(2月)には発表会を実施するなど、着実な段階を踏んで体感的に学ぶことができました。

担当者所見)

やらなければいけないことが特別決まっているわけではないので生徒のモチベーションによって、やるやらないのばらつきは大きかったと思います。しかし、外にインタビューに行くなど、実際の声を聞けた体験は貴重だったので、もっと回数を増やしていくらと思いました。一生懸命に取り組む生徒にとっては各自で調べてその内容をまとめる充実した時間だったと思います。意識の高い生徒と低い生徒の差が大きいと感じました。

・キャリア企画

毎回テーマを決め、全体講演や班単位で学ぶ場を単発的に設けました。

*就職とは *求人票の見方 *高校生から社会人に向けて（西條さん講演）

*進路ガイダンス（企業 or 専門学校別）・3学年内定者講習

・サマーセミナー

SPI講座、国語力講座、探究講座、PCスキルアップ講座を実施。

○本年度の取り組みを通して

本年度から選択講座を設け、従来の単発企画に加えて選択講座に重点を置いた結果、エリアごとの継続的な学習体制に一定の意識を持つ生徒もより見られるようになったと感じられる。特に生徒アンケートからは「タイピング速度が上がった」「普段できない基礎学力の振り返りができる良かった」「考える事

の大切さを学んだ」など、程度はそれぞれだが体感的な感想も多く、次年度も継続して取り組むことが必要であると思われます。可能な限り全体で集合する機会も設け、集団指導等を通して折に触れてあいさつやマナー、身だしなみ等就職時に求められる力についてを伝え、日頃からの習慣化の大切さを説き続けた。その結果、エリア全体での集合や、企業・専門学校ガイダンスに際してはしっかりと気持ちを引き締められる生徒は着実に増加し、講師への質問やメモを取りながら積極的に聴く生徒など、細かな姿勢に変化を感じる場面も多々ありました。

選択科目を設けた反面で、ライフサイクルや18歳成人、ワーカルールなどを学ぶ機会を効率的に作らなければならず、2期制や再来年度のプログレスタイム等を通じたエリア学習の時間の増加が望まれる。

○次年度以降改編にむけて

次年度は2、3年生中心の取り組みになりますが、改編で設定される二類「PC資格取得コース」等は、本エリアで重点を置いた取り組みでもあるため、必要に応じて連携が必要であり、本年度に続いてその方策を探る一年となると考えられます。あわせて本年度成し得た学びにプラスしてよりレベルの高い資格や学びへの挑戦をする機会を得たいと考えています。

また、探究力養成や基礎（発展）学力養成（＝学習習慣の確立）など、本エリア独自の取り組みの中で、今後より本校が活性化すべきテーマも扱っているため、その先鞭となる取り組みにも力を入れたいと考えています。また学力層が変化しても、家庭の事情等で就職希望に変更をする生徒も必ず現れることから、就職指導の中核としての実績は継承したいと考えています。

本年以前もそうでしたが、どのような取り組みもキャリア教育に通ずることができることから、各コース、エリアの中でも、キャリアアップエリアがカバーする範囲は曖昧であることも特徴です。その特長を生かして、生徒や学年等の需要の細かい部分を埋めることも可能なので、常に広い守備範囲を持つことを意識した講座設定など柔軟な取り組みに努めたいと思います。

6-2. 小論文指導・小論文講座について

・今年度の内容

*学研みらいの以下の教材を用いた。

*1年生：文章の書き方講座一説明作文・意見作文

2年生：文章の書き方講座一体験作文、志望理由書講座

3年生進学希望生徒：志望理由書講座

就職希望生徒：課題作文「高校生活であなたが得たものについて」

*他に2・3年生の進学希望者には放課後講座として、小論文講座を開講した。

6-3. 総合的な探究学習について

・今年度の内容

*1年生：学校を探究する

主なテーマ：箕面学園で不便なこと、バリアフリー・ユニバーサルデザインは進んでいるのか

2年生：修学旅行を探究する

主なテーマ：北海道、ニセコについてのワーク

3年生：進路を探究する

・1・3年生については学年ごとに発表会を行った。それぞれでタブレットを使用し、発表資料やグループワークに取り組む様子があった。探究学習に関しては、社会とのつながりや自己有用性の高まりなど様々な効果が期待できる。3年生ではそれぞれがテーマを作って探究したが、調べ学習の域を出ない探究も多く見られた。今後も継続していくことにより、「本校独自の探究学習」を模索していきたい。

6-4. 検定学習

6-4-1. 漢字検定について

各学年2回受験して、322名が合格した。中でも、準2級に7名、2級に1名合格した。

6-4-2. 英語検定について

1回目合格者は準2級1名、3級4名だった。2回目合格者は2級1名、3級6名だった。
今後も合格者が増えるよう、取組を続けていきたい。

6-5. スタディサプリによる学習

- ・到達度テストの結果から連動課題配信を行い、定期的に課題を配信。（朝学や家庭学習の課題とする）
- ・各教科で、成績の一部としての課題配信を実施
- ・オープンキャンパス時にデモアカウントを10個発行してもらい、スタディサプリ体験ブースを開いた。

○まとめ

今年度から全学年スタディサプリを利用した。それぞれの教科での利用を中心に、各教科に成績への反映などを促し、一定量の利用ができていたのではないか。また、各教科で、小テストや考查問題に反映させることができ見受けられ、生徒の取り組むきっかけになったと思う。今後は、課題配信以外の部分で、生徒自身がスタディサプリを利用してくれると、学習支援アプリの1つとして、より効果的になるのではないかと思う。

○来年度に向けて

留学生が利用できるよう、一般生徒と同じ内容ではなく、留学生担当者を中心に留学生用の課題配信を計画的に行っていきたい。

教科毎の課題配信が一定量あったので、今後も教科での活用を中心に取り組ませていきたい。

今後は、生徒自ら取り組んでいく環境作りに取り組んでいく。

7. 新たな取り組みとして（生徒学校評価・生徒授業評価）

本年度より学校評価と授業評価のアンケート（Google フォームを利用）を生徒に対して実施した。

7-1. 学校評価

定期考查毎に、以下の1～10の項目について10点満点で評価を付けてもらい、クラス、学年毎に集計した。

- 1 みんなが「楽しい」クラスになっていますか？
- 2 あなたは、主体的に授業を受けて、学習できていますか？
- 3 あなたは、自ら考え、正しく判断し、適切な行動をとることができますか？
- 4 あなたは、他の生徒とコミュニケーションをとることができますか？
- 5 あなたは、学校のルールや社会のルールを正しく理解し、行動することができますか？
- 6 あなたは、「進路」に向けて準備を進めることができますか？
- 7 あなたは、スマホやタブレットなどで情報を適切に収集し、適切に利用できますか？
- 8 あなたは、心や体が不調なときにまわりに相談することができますか？
- 9 教員は生徒に親切・丁寧に対応し大事に寄り添うことができますか？
- 10 教員は「いじめ」や「いやがらせ」のない学校運営ができますか？

7-1-1. 生徒学校評価の活用について

- ①学校評価まとめを教員全体で共有。
- ②生徒本人の回答・クラス平均・学年平均を個票にして、担任に配布。

クラスの生徒の回答を一覧表にして、担任に配布。

生徒の現状理解に活用。

保護者懇談会で保護者とも情報を共有する。

- ③問6 「進路に向けての準備を進めているか」

3年生・数値が低い生徒（回答が3以下）について、進路指導部・学年団と共有。

今後の進路指導に活用する。

- ④問8 「心や体が不調なときにまわりに相談しているか」

数値が低い生徒（回答が3以下）について、養護・カウンセラーと情報を共有する。

- ⑤問9 「教員は親切・丁寧・大事にしているか」

数値が低い生徒（回答が3以下）について、学年団と共有。

学年主任による聞き取りをおこなう。

⑥問10 「教員はいじめやいやがらせのない学校運営ができているか」

数値が低い生徒（回答が3以下）について、学年団と共有。

担任による聞き取りをおこなう。

その他、全教員が評価結果を念頭に置いて生徒と関わることでより丁寧な対応を行うことに資するものとした。

7-1-2. 生徒学校評価の本年度のまとめ

本年度の評価の推移は下表の通りだった。

各学年の合計平均値)

| | 1学期中間 | 1学期末 | 2学期中間 | 2学期末 | 学年末 |
|----|-------|------|-------|------|------|
| 1年 | 81.0 | 81.2 | 81.2 | 83.4 | 81.5 |
| 2年 | 75.2 | 79.9 | 79.0 | 83.8 | 83.7 |
| 3年 | 73.7 | 80.3 | 80.6 | 81.8 | |

平均値としてはどの学年も年度始めと比べて年度末でポイントが上がった。

7-2. 授業評価

定期考查毎に、以下の観点を参考にして、各科目を10点満点で評価してもらい、科目、教科ごとに集計した。集計結果については授業改善に活用した。

- ・教科担当は「親切・丁寧」に接し、生徒を「大事」にしているか。
- ・教科担当の授業はわかりやすいか。
- ・教科担当はタブレットを有効に利用しているか。
- ・授業に主体的に参加できたか。
- ・授業を通して学力は身についたか。

以上

【各目標に係る実践状況及び報告について学校評価委員会からの意見】

5. 各目標に係る実践状況

5-1. 生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

1) 遅刻指導の徹底

令和6年度は昨年度に比べ遅刻者の1日平均人数が減少していること、日々の指導の成果だと評価できます。しかしながら、ポイント別指導を昨年度と比較すると、重積ポイントの生徒数が多い現状ですので根気強く指導を行ってください。

2) 定期的な頭髪服装検査、指導の実施

昨年度に比べ頭髪指導数の増加が気になります。社会情勢に合わせ、適切な指導を継続してください。服装については、登下校時の服装の乱れが気になります。学外であっても適切な制服の着用について根気強く指導してください。

3) 登下校中のマナーの向上

近隣の方、公共交通機関利用者より生徒の利用マナーについて変わらずご指摘を受けている点について、全体、個別に指導を行っていくとあるが、数年変わらない状況であることを重く受け止めることが必要ではないかと思います。また今の指導内容で変化が見られないなら、指導内容の見直しが必要だと考えます。

4) 講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習など）

人権等講習については、各学年テーマを設定、実施し、アンケート収集を行えており一定の成果を感じます。次年度に向けて計画的に行ってください。

5-2. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実

保護者の応援、観覧が自由になり、多くの保護者様にお越しいただくことができました。

生徒アンケートでは、9割以上の生徒が「良かった」との回答があること、先生方ははじめ行事実行委員の取り組みについてとても評価できます。継続して楽しむことができる行事を実施できるよう期待します。

2) 部活動の活性化

クラブ所属率が73.3%であり、昨年度より7.1%増加。併せて、主要大会へ出場するクラブが多くなっていることからも、アスリートクラブの活動が活性化され、効率よく活動ができていることがうかがえます。継続してください。

3) 生徒会活動の充実

継続して実施してください。また新たな取り組みに期待します。

5-3. いじめ問題への対応

学期末ごとにアンケートを実施することで、未然防止に取り組めたこと評価できます。

6. 各種学習活動の報告

6-1. エリア学習

取り組み内容への評価や課題等エリアごとに様々だと思いますが、各エリアの基本方針を達成できるよう充実した活動を送れるように努めてください。

6-2. 小論文指導・小論文講座について

学年ごと、進路ごとにテーマを設定して、取り組めたこと評価致します。

実践した上での、具体的な評価の報告を行ってください。

6-3. 総合的な探究学習について

学年ごとに探求内容を設定して取り込めたこと評価致します。継続し、「本校独自の探求学習」に期待します。

6-4. 検定学習

各種検定については、上級受験者及び合格者が増加しており、継続して取り組みを行ってください。

6-5. スタディサプリによる学習

学習支援アプリとして教科配信課題だけではなく、有効に活用するため生徒自ら取り組めるよう環境づくりに努めてください。

7. 新たな取り組みとして（生徒学校評価・生徒授業評価）

7-1. 学校評価

7-2. 授業評価

Google フォームを活用されたこと、生徒の回答のしやすさ、集計のしやすさ等計画の工夫が感じられます。
回答内容を教員全体、学年、各部署、担任等で共有することで、保護者懇談会、進路指導等有効に活用でき
ていると評価致します。